

「わたしはあるという者」
出エジプト記 3章～4章 (3:11～14)
～モーセの生涯(2)～

はじめに

今回は、モーセの生涯の2回目です。モーセは、イスラエルの民がエジプトにいた頃、レビ人の両親から生まれ、エジプトの王女に引き取られて養育されました。40年をエジプトで過ごした後、ミデヤンの荒野で40年間牧畜生活をします。80歳になったとき、神はイスラエルの民をエジプトから救い出すために指導者としてモーセを選びました。4章から申命記まで、モーセのその後の生涯が記されていますが、今回は出エジプト記3章と4章から学びましょう。

中心聖句「神はモーセに仰せられた。『わたしはある』という者である」(3:14)。

1 モーセの召命のあらまし。

(1) 燃える柴の中での神の現れ (3:1-6)。

モーセは、妻の父の羊を連れて神の山ホレブに行きました。そこで彼は、柴が燃えているのに、焼け尽きないという不思議な現象を見たのです。これは、エジプトで過酷な苦しみを受けているイスラエルの民が、燃え尽きないということを示すものだと思われます。

疑問に思ったモーセが近づくと、主がモーセを呼ばれました。そして、「あなたの立っている場所は、聖なる地である」と告げたのです。

(2) モーセに使命を与える (7-10)。

主はモーセに、「わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ」とお命じになりました(10)。

(3) モーセの躊躇と神の励まし (11-14)。

それに対しモーセは、「私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行つてイスラエル人をエジプトからつれ出さなければならないとは」と躊躇します(11)。

神は「わたしはあなたとともにいる」と言つてモーセを励まします。そして、モーセの質問に答え、神はご自分の名が、「あるという者である」ことを示されたのです。

(4) 具体的な指示 (15-22)。

次に、神は具体的な指示を与えます。

*アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主がモーセを遣わしたこと。

*神が民をエジプトから救い出し、乳と蜜の流れる地に連れていくことを長老たちに告げ、彼らとパロの行き、許可を求めること。

(5) モーセの抵抗と神の保証 (4:1-23)

しかし、モーセはさらに抵抗します。

「彼らは私を信ぜず、私の声に耳を傾けないでしょう」と。すると主は、二つのことを示されました。一つは杖を蛇に変えたこと。もう一つは手が雪のように白くなったこと。これによって人々は信じる。それでも信じなければ、ナイル川を血に変えると言われました。

さらにモーセは抵抗します。「私はことばの人ではありません」と。それで主は、モーセの兄アロンをモーセの代わりにすると言われました。

(6) 主がモーセを殺そうとする (24-26)

エジプトに帰る途中、神はモーセを殺そうとします。妻のチッポラは息子に割礼をして、救われました。神に従う者は、徹底的に従わなくてはならないことを示されたのでしょう。

(7) アロンと民の了解 (27-31)。

モーセはアロンに会い、二人は長老たちをみな集め、アロンは主がモーセに告げられたことばを告げ、民は信じました。そして彼らは、主がイスラエル人を顧み、その苦しみをご覧になったことを聞いて、ひざまずいて礼拝しました (31)。

2 ここから学べること。

(1) 神の召しの確かさ。

神は、アブラハムを選び、神の民イスラエルを作り出す計画をお立てになりました。そして、その約束通りに民をエジプトからお救いになろうとされ、モーセをお選びになりました。「あなたの立っている場所は、聖なる地である」 (5)。「この地すなわち、ホレブが聖なる地である」という意味と、「モーセが羊を飼いながら来たこの地」すなわち、現に働いている場所という意味も考えられます。

適用：私たちは神の民として選ばれたのです。私たちは、信じて救われまし

た。しかし、それは、神が私たちが神の子として、神の民として選んでくださったからです。

ですから、神はどんなことがあっても神の民を守られるのです。

そして私たちが働いている場所、いる場所もまた「神の御前」であることを忘れないようにしましょう。

(2) モーセの抵抗と神の忍耐。

モーセは40歳のとき、神の民を救おうとして立ち上がりました。その時の彼は自身に満ちていました。その力があると信じていました。しかし、失敗し、ミデヤンの地で羊を飼ううちに自身を失い、「私はいったい何者なのでしょう」と言うほどになっていました。しかし、それが神のしもべにとって必要なことだったのです。自分は、何も出来ない。神に頼るほかはないと思うとき、神はその人をお用いになるのです。

その時神は「わたしはあなたとともにいる」と言われました。

モーセはまた、民は私を信じないでしようかと抵抗します。

その時、主は杖を神の杖に変えてくださいました(4:20)。

さらに、モーセの手がツァラアトに冒されているのをお示しになりました。モーセの本来の姿は、罪人です。しかし、主はその彼をお用いになるのだと示されたのです。

また、私は話しべたですと言うと、アロンを助け手としてお与えになりました。

適用：私たちがいろいろと抵抗します。しかし、主が選び、主が用いようとされているのです。必要なものはすべて、主が備えてくださいます。

(3) 「わたしはある」という者。

神は、モーセにご自身を「わたしはある」という者であると示されました。これは次のことを示しています。

神は、「自ら存在する方」。

神だけが自ら存在する方です。他のものは、自分から存在出来ません。この宇宙は自然に出来たということは出来ないのです。ですから、正しくは自然ではないのです。無から有は出来ないからです。

神は、「永遠に存在する方」。

神は初めもなく、終わりもありません。永遠に存在されます。神はいつもおられるのです。私たちは変わります。しかし、神は変わりません。

神は、「契約の神」。

神はまた、「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」と言われ
ました(3:6)。これは、神が「契約」の神であり、契約を守られる
方であることを示しています。

適用：神は、永遠に変わらない方です。天地さえ過ぎゆくものですが、神は永遠に存在されます。この方に信頼することほど安全なことはありません。

神は、アブラハムと結ばれた契約を守られる方です。そのことは、神は私たちに約束なされたことは破らないということでもあります。私たちの救いは、神のみことばに基づいています。あなたの信仰は、神のみことばに基づいていますか。それとも、自分の知識や感情に基づいていますか。自分の知識や感情は変わります。

結論

神様は、エジプトで苦しむ神の民を救うためにモーセを起こされました。しかし、モーセは抵抗しました。でも、神様は忍耐強くモーセと説得なさり、彼をお用いになりました。

神様は、「わたしはあるという者である」と言われました。ですから、私たちをもいつも守り、私たちに必要なものを必ず備えてくださいます。

ですから、神様に従って生活することが一番安全であり、確かなのです。神様第一の生活を守っていきましょう。

私たちを救うために、神様はイエス様をこの世に送ってくださいました。そして、その十字架の死と復活によって私たちを罪から救い出してくださいました。そして、いまイエス様を信じる者はだれでも救われるのです。

救い主として受け入れていない人への勧め。

あなたは、今日までイエス様を知らなかったかもしれません。しかし、イエス様はあたを知っておられます。今日、今、イエス様のもとに帰っていらっしゃい。イエス様は、それを望んでおられます。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」